

平成 31 年 4 月 1 日に思う

夢がふくらんだ新元号は「令和」となりました。万葉集の「梅花の歌」から引用されたこの言葉は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という思いが込められているとのこと。国民の期待に応える時代であることを願う一方で、それは“私たち国民の役割”であることも理解しています。

そんな中、平成 31 年度がスタートしました。3 月の定例議会に「水源地の村づくりを一層推進すること。そのためにも川上宣言の具現化を図り、都市にはない豊かな暮らしを築くこと。そして引き続き、住みごこちを整え新しい出会い（若者定住）を求めること」に徹するとした施政方針を示し、議員各位のご理解をいただきました。その間にいただいた様々なご意見やご忠告を真摯に受けとめ、必ずや村政に反映する決意です。

地方の時代と叫ばれ、期待された三位一体改革は必ずしも自治体がのぞむ財源の拡充につながらなかったことや、依然東京への一極集中が衰えないことなど、今なお地方は重い課題を背負っています。しかし私は、地方創生とは“地域の知恵”だと考えています。地域を元気にするのは、地域のチカラであるべきです。

そのような思いのもとで今年度も村づくりに取り組んでいきます。引き続きのお力添えと叱咤激励をよろしくお願いします。